

建設業関係者など約400人が参加し防災について考えた講演会



# 建設業の重要性アピール

## 各界の400人聴講

大分建設新聞社は21日、大分市の大分全日空ホテルオアシスタワーで、「天災は必ずやってくる 大切な命を守るには」と東日本大震災の教訓をテーマに講演会を開きました。本紙読者を中心に400人を上回る方々にご参加いただき、会場は満員、大盛況となりましたことを厚く御礼申し上げます。またこの講演会は大分合同新聞社が後援、同紙上で告知していただきましたこともあり、建設業界以外にも多数の参加があり、震災復興、防災における建設業界の重要性を広くアピールできました。

本紙代表取締役川邊伴子氏が挨拶。地方建設記者の会の会長の梅崎健次郎氏も被災地に赴き、その経験をこの講演会の開催にまでつなげました。来賓の梅崎健次郎氏は「被災地の復興はもうそろそろ、被災地以外の地域も元気にならなければいけない。この講演会がこれからの日本を考え、地域に元気を与える契機となることを願う。地域のために建設業界が率先して防災・減災に取り組む。大分が輝ける郷土となるように、皆様のお力をお願いしたい」と、ご祝辞をいただきました。



社会資本整備などで公開意見交換会も

治様に花束が贈呈されました。小島編集長は「大きな津波が被災地を飲み込む実際の状況をビデオ映像で示しながら、被害の実情を生々しく報告。その中で災害時の教育訓練の経験や正しい知識の有無が生死を分けたことを述べ、ハードとソフト両面の準備が重要であると指摘されました。また、復旧活動では、国土交通省・建設業界が先頭となって迅速で重要な役割を果たしたことが、現在がれき処理を

中心に莫大な予算をもって復興事業が行われていることなど、被災地の現状と課題を報告していただきました。

午後は公開意見交換会。慶応大学特任教授の米田雅子様、九州地方整備局道路部長の山内正彦様、梅崎部長、梅林会長、小島編集長に登壇いただき、会場からの意見や報告を交えて、これからの県土の防災・減災のあり方について活発な意見交換を行いました。県土の防災道路網の整備に向けて、梅崎部長から山内部長に、国直轄整備区間である東九州自動車道蒲江〜県境間の早期整備を、力強く要望しました。米田先生からは「社会資本の整備は費用面で要否が検討されるものだが、未来の社会に向けて何を整備しなければいけないか、を考えるべきだ」と、講演会、意見交換会を総括していただきました。

※講演会の詳細は後日、掲載します。(中本)